

Researches 2022 (2022.04-2023.03)

近畿大学産業理工学部教員活動記録

2022年4月－2023年3月

## 生物環境化学科

## 藤井 政幸

## ■著書

Controlled Intracellular Trafficking and Gene Silencing by Oligonucleotide-Signal Peptide Conjugates, Masayuki Fujii, Marija Krstic-Demonacos and Constantinos Demonacos Section 8. Nucleic Acids Therapeutics, Chapter 6, 1-33 (2023). Handbook of Chemical Biology of Nucleic Acids, Editor-in-chief; Naoki Sugimoto, Springer-Verlag GmbH [https://doi.org/10.1007/978-981-16-1313-5\\_71-1](https://doi.org/10.1007/978-981-16-1313-5_71-1)

## ■学術論文

Elimination of Off-target Effect by Chemical Modification of 5'-End of siRNA

Yasuo Shiohama, Ryosuke Fujita, Maika Sonokawa, Masaaki Hisano, Yojiro Kotake, Marija Krstic-Demonacos, Constantinos Demonacos, Gengo Kashiwazaki, Takashi Kitayama and Masayuki Fujii, Nucleic Acid Therapeutics, 2022, 32(5): 438-447.

## ■学内研究報告

1. 化学修飾プライマーを利用したKRAS遺伝子の一塩基変異識別定量PCR法  
藤田亮祐、園川舞華、久野雅明、藤井政幸  
近畿大学産業理工学部研究報告かやのもり, 2022, 33, 43-48. (2022年6月30日)
2. プルーフリーディングポリメラーゼを利用したアレル特異的定量PCR法  
藤田亮祐、園川舞華、久野雅明、藤井政幸  
近畿大学産業理工学部研究報告かやのもり, 2022, 33, 49-56.

## ■特許出願

特願2022-137094「高感度PCR法」

出願人：学校法人近畿大学

発明者：藤井政幸

出願日：2022年8月30日

## ■国際学会発表

1. A Novel Real Time PCR for Highly Sensitive and Accurate Detection of KRAS Mutations and SARS-CoV-2 Variants  
Ryosuke Fujita, Mai Ooishi and Masayuki Fujii  
The 49th International Symposium on Nucleic Acids

Chemistry

24 November 2022 (Virtual)

2. Non-Toxic Delivery, Controlled Intracellular Localization and Enhanced Gene Silencing of siRNA by Small Peptides  
Masayuki Fujii, Ryosuke Fujita, Maika Sonokawa, Masaaki Hisano, Yojiro Kotake, Gengo Kashiwazaki and Takashi Kitayama, The 14th Australian Peptide Conference 2022, Voco Gold Coast, Australia, 8-13 May 2022.

## ■国内学会発表

1. 5'-末端修飾によるsiRNA非対称性認識への影響とオフターゲット効果の回避  
藤井政幸、神武洋二郎、塩浜康夫  
日本薬学会第143年会27P1-pm2-086、2023年3月27日、札幌市
2. 一塩基変異を完全識別する新規定量PCR法によるSARS-CoV-2変異株高感度検出  
塩浜康夫、藤田亮祐、神武洋二郎、藤井政幸  
第16回バイオ関連化学シンポジウム、2022年9月10日-12日、名古屋市
3. 5'-末端化学修飾によるsiRNA対称性認識と鎖選択への影響  
藤井政幸、塩浜康夫  
日本核酸医薬学会第7回年会、2022年7月31日-8月3日、東京
4. KRAS遺伝子の一塩基変異を完全識別する定量PCR法  
藤田亮祐・外山春樹・園川舞華・久野雅明・藤井政幸  
日本核酸医薬学会第7回年会、2022年7月31日-8月3日、東京
5. Elimination of Off-target Effect by Chemical Modification of 5'-End of siRNA  
塩浜康夫、藤井政幸  
第23回日本RNA学会年会、2022年7月20日-7月22日、京都市
6. 化学修飾プライマーとノンブルーフリーディングポリメラーゼを用いる一塩基変異識別PCR法  
園川舞華、藤田亮祐、羽嶋紗希、大石真衣、藤井政幸  
第59回化学関連支部合同九州大会、2022年7月2日、北九州市
7. 新規リアルタイム法によるSARS-CoV-2変異株の高感度、迅速検出  
藤田亮祐、大石真衣、園川舞華、羽嶋紗希、藤井政幸  
第59回化学関連支部合同九州大会、2022年7月2日、北九州市
8. 化学修飾プライマーとブルーフリーディングポリメラーゼを用いる変異KRAS遺伝子の高感度、高精度定量解析

大石真衣、藤田亮祐、園川舞華、羽嶋紗希、藤井政幸  
第59回化学関連支部合同九州大会、2022年7月2日、北九州市

## 田中 賢二

### ■学術論文

Kouhei Mizunor, Mais Maree, Toshihiko Nagamura, Akihiro Koga, Satoru Hirayama, Soichi Furukawa, Kenji Tanaka, Kazuya Morikawa :

Novel multicellular prokaryote discovered next to an underground stream. *eLife*, Oct 11, 2022. <https://doi.org/10.7554/eLife.71920>

### ■国内学会発表

1. 板倉真優、岡本沙樹、田中賢二、田口精一、松崎弘美：乳酸ベースバイオプラスチックを合成する *Cupriavidus necator* の分子育種。第59回化学関連支部合同九州大会講演要旨集、北九州国際会議場、2022年7月2日
2. 板倉真優、宮原しろ沙、岡本沙樹、田中賢二、田口精一、松崎弘美： *Cupriavidus necator* を宿主とした乳酸ベースポリマーの生合成。第74回日本生物工学会大会講演要旨集、2022年10月19日、オンライン

## 菅野 憲一

### ■学術論文

バジルシード多糖ゲルの抽出条件と吸水特性、菅野憲一、北條紗也、米崎愛未、石川達博、安富真生、中山凜、石川健太、かやのもり（産業理工学部研究報告）、33、33-38 (2022)

### ■国内学会発表

天然多糖のクライオゲル化による新規機能性多孔質材料の開発、石川健太、菅野憲一、第59回化学関連支部合同九州大会（2023年7月2日、北九州国際会議場）

### ■その他

#### 学外委員

1. 飯塚市自然環境保全対策審議会委員
2. 宮若市環境審議会委員
3. 福岡県立鞍手高等学校スーパー・サイエンス・ハイスクール運営指導委員

## 森田 資隆

### ■国内学会発表

1. 角大輔、益拓海、玉田英之、森田資隆、未分化なP19細胞に特異的に結合するペプチドの探索、第59回化学関連支部合同九州大会、2022年7月2日、北九州国際会議場（福岡県北九州市）

### ■学外活動

1. 第59回化学関連支部合同九州大会、優秀ポスター賞審査員、日本農芸化学会西日本支部、2022年7月2日、北九州国際会議場（福岡県北九州市）

### ■模擬講義

1. 模擬講義、身近なバイオテクノロジー —微生物を例にして—、2022年7月23日午前、および午後、近畿大学福岡キャンパス（福岡県飯塚市）
2. ミニ講義のオンデマンド配信、身近なバイオテクノロジー —微生物を例にして—、2022年7月24日、8月20日、および9月25日、近畿大学東大阪キャンパス（大阪府東大阪市）

### ■社会貢献

1. マイナビ進学大学2022、ゼミ研究室特集に掲載、近畿大学産業理工学部環境生物化学研究室、2022年版
2. 一般社団法人九州インターンシップ推進協議会 監事

## 松本 幸三

### ■著書

松本幸三、“バイオベースエポキシ樹脂”、“バイオプラスチックの最新技術動向—真の普及を目指して—”木村俊範監修、第15章、pp.165-174、シーエムシー出版、(2022).

### ■国内学会発表

1. 沖田亮、松本幸三：クエン酸を利用したバイオベースカーボナート樹脂の合成1、第71回ネットワークポリマー講演討論会、伝国の杜 置賜文化ホール（山形県米沢市）、2022年10月19~21日（発表20日）、ポスター発表、p.101.
2. 松本幸三、西岡祐輝、後藤颯馬、牧田和真：芳香族系バイオベースカーボナート樹脂の合成と硬化反応、第71回ネットワークポリマー講演討論会、伝国の杜 置賜文化ホール（山形県米沢市）、2022年10月19~21日（発表20日）、口頭発表、p.43.
3. 沖田亮、松本幸三：クエン酸を利用したバイオベースカーボナート樹脂の開発、第71回高分子討論会、北海道大学札幌キャンパス、2022年9月5~7日（発表7日）、ポスター発表、3Pb010.
4. 西岡祐輝、後藤颯馬、牧田和真、松本幸三：芳香族系バイオベースカーボナート樹脂の合成と硬化、第71回高分子討論会、北海道大学札幌キャンパス、2022年9月5~7日（発表5日）、1R15.
5. 沖田亮、松本幸三：クエン酸を利用したバイオベースカーボナート樹脂の開発、第59回化学関連支部合同九州大会、北九州国際会議場、2022年7月2日、ポスター発表、PF-3-005.

## 6. 後藤颯馬、松本幸三：

チラミンを出発原料としたバイオベースカーボナート樹脂の合成と性質、第71回高分子学会年次大会、オンライン開催、2022年5月25～27日（発表26日）、ポスター発表、2P2C029.

## ■招待講演

## 1. 松本幸三：

5員環カーボナート基を持つポリマーによるリチウムイオン電池用高分子電解質の開発、第4回近畿大学エネルギーフォーラム、2022年11月26日、近畿大学東大阪キャンパス アカデミックシアター実学ホール、大阪府東大阪市.

## 2. 松本幸三：

バイオベースカーボナート樹脂の開発、分子工学シンポジウム、2022年10月1日、滋賀医科大学（滋賀県大津市）、講演要旨集p2.

## 神武 洋二郎

## ■学術論文

1. Yasuo Shiohama, Ryosuke Fujita, Maika Sonokawa, Masaaki Hisano, Yojiro Kotake, Marija Krstic-Demonacos, Constantinos Demonacos, Gengo Kashiwazaki, Takashi Kitayama, Masayuki Fujii: Elimination of Off-target Effect by Chemical Modification of 5'-End of siRNA. *Nucleic Acid Therapeutics*. 32(5): 438-447, 2022.

## ■招待講演

## 1. 神武洋二郎:

長鎖ノンコーディングRNAによる細胞周期の制御。  
東京農業大学大学院生命科学研究科セミナー、オンライン、2022年6月1日

## ■国内学会発表

## 1. 神武洋二郎、若崎高裕:

癌遺伝子YB1による細胞周期制御。  
日本農芸化学会2023年度大会、オンライン、2023年3月16日.

## 2. 谷川由信、若崎高裕、神武洋二郎:

長鎖ノンコーディングRNA、OIP5-AS1による頭頸部癌及び大腸癌の増殖制御。  
日本農芸化学会2023年度大会、オンライン、2023年3月16日.

## 3. 藤井政幸、神武洋二郎、塩浜康雄:

5'-末端修飾によるsiRNA非対称性認識への影響とオフターゲット効果の回避。  
日本薬学会第143年会、札幌市、2023年3月27日.

## 4. 神武洋二郎、谷川由信、樽見涼花、若崎高裕:

長鎖非コードRNA OIP5-AS1とANROCによる細胞周期制御.

日本薬学会第143年会、オンライン、2023年3月28日.

## ■その他

・高大連携活動

## 1. 神武洋二郎：

遺伝子DNAの検出とイメージ化.

福岡県立鞍手高等学校理数科サマーセミナー、近畿大学福岡キャンパス、2022年8月4日.

## 大貫 宏一郎

## ■学術論文

1. 門倉一成、富田剛、外山春樹、大貫宏一郎、駿河康平. 水産練り製品「さつま揚げ」摂取による高齢健常者への影響—28日間連続摂取による摂取前後比較試験—. *薬理と治療*. 50(12) 2215-2223. 2022年12月
2. 西出朱美、YANG Jianbiao、大貫啓子、大貫宏一郎. 高齢日本人女性を対象としたサジー果皮由来成分サプリメント摂取による認知機能改善効果—ランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験—. *薬理と治療*. 50(11) 2067-2072. 2022年11月
3. 菊島健児、清水邦義、山口真梨子、清原公貴、長井都、山口直弥、大貫宏一郎. 薬用漢方クリーム4週間使用による目尻のシワ改善効果—ハーフフェイス法を用いた単盲検比較による臨床試験—. *薬理と治療*. 50(11) 2005-2013. 2022年11月
4. 西出朱美、原健二郎、大貫啓子、大貫宏一郎. イヌリン摂取による高齢の健常日本人に対する免疫能向上効果—ランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験—. *薬理と治療*. 50(10) 1855-1860. 2022年10月
5. 菊島健児、山口真梨子、前田美里、清原公貴、山口直弥、大貫宏一郎. 天然由来成分含有ピーリングジェル4週間使用による目尻のシワ改善効果—ハーフフェイス法を用いた単盲検比較による臨床試験—. *薬理と治療*. 50(9) 1657-1665. 2022年09月
6. 外山春樹、西出朱美、祖父江守恒、YAM Kensho、清水邦義、大貫宏一郎. 健常中年女性を対象としたサジー果汁飲料の摂取による空腹感軽減効果—ランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験—. *薬理と治療*. 50(9) 1639-1644. 2022年09月
7. 菊島健児、永柄真澄、原健二郎、大貫啓子、清水邦義、大貫宏一郎. 水溶性食物繊維Fuji FFイヌリン4週間摂取によるアレルギー性鼻炎様症状改善効果：ランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験. *九州大学大学院農学研究院学芸雑誌*. 77(2) 41-48. 2022年9月
8. 吉永一浩、林洋美、宮崎直人、大貫宏一郎、福田理子. 1,5-D—アンヒドロフルクトースの経口摂取時の安全性評価と血清尿酸値への影響. *薬理と治療*. 50(8) 1437-

1446. 2022年08月

9. 後藤純平、原健二郎、清水邦義、大貫宏一郎、イヌリン含有食品の摂取が心身の疲労感を自覚する健康人の疲労感・ストレスおよび粘膜免疫に与える効果の検証：ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験. 診療と新薬 59 (6) 301-314. 2022年06月
10. 菊島健児、永柄真澄、宮崎瞳、瀬戸山聖香、大貫啓子、清水邦義、大貫宏一郎、サジー果汁飲料の4週間摂取に伴う免疫機能改善効果—ランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験—. 薬理と治療. 50(6) 1079-1094. 2022年6月
11. 高橋美貴、原健二郎、清水邦義、大貫宏一郎. イヌリン含有サプリメント摂取による腸内環境および排便症状や肌質に及ぼす改善効果. 薬理と治療. 50(5) 927-935. 2022年5月
12. Toyama Haruki, Nishide Akemi, Shimizu Kuniyoshi, Ohnuki Koichiro. Randomized Controlled Trial of the Effects of Tongkat Ali Intake on Stress Markers and Sleep Quality in Healthy Japanese Adults. 薬理と治療. 50(5) 871-876. 2022年5月
13. 後藤純平、清原公貴、山口真梨子、山口直弥、清水邦義、大貫宏一郎. 関節痛(肩、腰、膝)に対する化粧品とマッサージの併用効果に関する研究：ランダム化・プラセボ対照・二重盲検・並行群間比較試験. 診療と新薬 59 (4) 186-196. 2022年4月

■その他

1. 高校生模擬授業(春日高等学校)『食のバイオサイエンス』  
2022年9月16日、福岡県春日市

岡 伸人

■学術論文

1. S. Matsusako, S. Masuda, S. Matsuo, R. Imamura, T. Sakuragi, H. Inada, H. Hayakawa, T. Nishida, N. Oka: Cr<sup>III</sup>-doped vanadate glass: characterization and application as a cathode active material for lithium-ion batteries, *Hyperfine Interactions*, 244(2) (2023). (DOI: 10.1007/s10751-022-01812-3)
2. 松尾紗絵子、下城直貴、福地彩夏、中原日向、森元悠真、森岡陽介、堀英祐、西田哲明、岡伸人：清浄インテリア実現に向けた殺菌光触媒塗料の開発および環境教育、かやのもり (近畿大学産業理工学部研究報告)、33、39-42 (2022).

■特許

1. 岡伸人、西田哲明、湯浅雅賀、宮本孟：空気極用触媒およびその製造方法、特許第7137826号(2022年9月7日).

■受賞

1. 優秀発表賞(口頭発表)：福岡県環境教育学会第25回年会(福岡)、2022年8月20日.  
題目：重金属廃液を浄化するためのゼリー状材料の開発および環境教育  
発表者：福地彩夏、久保萌花、松尾紗絵子、中原日向、森元悠真、西田哲明、岡伸人
2. 優秀発表賞(ポスター発表)：福岡県環境教育学会第25回年会(福岡)、2022年8月20日.  
題目：酸化バナジウムを主成分とするガラスによるLiイオン電池用正極活物質の開発  
発表者：森元悠真、松迫駿介、松尾紗絵子、中原日向、福地彩夏、春田正和、西田哲明、岡伸人

■招待講演・依頼講演

1. N. Oka, T. Nishida: Application of vanadate glasses containing different metal oxides to rechargeable batteries, ISIAME 2022 (International Symposium on the Industrial Applications of the Mössbauer Effect), チェコ(対面・オンライン同時開催)、2022年9月14日.
2. T. Nishida, S. Kubuki, N. Oka, Industrial Applications of highly Conductive vanadate glass containing iron (III), ISIAME 2022 (International Symposium on the Industrial Applications of the Mössbauer Effect), チェコ, 2022年9月15日.
3. N. Oka: Vanadate glasses containing different metal oxides applied to rechargeable batteries, TCM-TOEO 2023 (8th International Symposium on Transparent Conductive Materials & 12th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics)、ギリシャ、2022年10月20日.
4. 岡伸人：リチウムイオン電池・金属-空気電池のための酸化物ガラス(バナジン酸塩ガラス)電極材料の開発、近畿大学エネルギーフォーラム、近畿大学東大阪キャンパス、2022年11月26日.
5. 岡伸人：材料科学から考える環境問題への貢献：電池や水質浄化のための材料開発、近畿大学福岡キャンパス、近畿大学産業理工学部FD研修会・研究成果報告会2022、2023年2月21日.

■国際学会発表

1. S. Matsuo, S. Matsusako, Y. Morimoto, A. Fukuchi, H. Nakahara, M. Haruta, T. Nishida, N. Oka: Development of Cathode Active Materials using Cr<sup>III</sup>-containing Vanadate Glass for Li-ion Battery, 2022 Spring Meeting of European Materials Research Society (E-MRS), オンライン開催, 2022年5月.
2. S. Matsuo, T. Sakuragi, H. Nakahara, A. Fukuchi, Y. Morimoto, M. Yuasa, T. Nishida, N. Oka: Development

- of Air-Electrode Catalyst using Co<sup>II/III</sup>-containing Vanadate Glass for Rechargeable Metal-Air Battery, 2022 Spring Meeting - European Materials Research Society (E-MRS), オンライン開催, 2022年5月.
3. S. Matsuo, T. Sakuragi, A. Fukuchi, H. Nakahara, Y. Morimoto, M. Yuasa, T. Nishida, N. Oka: Oxygen reduction and evolution reactions on the electrocatalyst of Co-containing vanadate glass developed for metal-air battery, TCM-TOEO2022 (8th International Symposium on Transparent Conductive Materials & 12th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics), ギリシャ, 2022年10月18日.
  4. S. Matsuo, G. Nishimura, A. Fukuchi, H. Nakahara, Y. Morimoto, T. Nishida, N. Oka: Development of Potassium Vanadate Glass containing Iron of Higher Oxidation States, TCM-TOEO2022 (8th International Symposium on Transparent Conductive Materials & 12th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics), ギリシャ, 2022年10月18日.
  5. A. Fukuchi, S. Matsusako, Y. Morimoto, S. Matsuo, H. Nakahara, M. Haruta, T. Nishida, N. Oka: Cathode active material containing vanadate glass developed for lithium-ion battery, TCM-TOEO2022 (8th International Symposium on Transparent Conductive Materials & 12th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics), ギリシャ, 2022年10月18日.
  6. A. Fukuchi, Y. Fujita, N. Yamaguchi, S. Shiba, S. Matsuo, H. Nakahara, Y. Morimoto, S. Kubuki, T. Nishida, N. Oka: Substitutional Effect of Tin or Indium on Highly Conductive Barium Iron Vanadate Glass: Structure and Electrical Conductivity, TCM-TOEO2022 (8th International Symposium on Transparent Conductive Materials & 12th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics), ギリシャ, 2022年10月18日.
- 国内学会発表
1. 松尾紗絵子、西村郡、中原日向、福地彩夏、森元悠眞、西田哲明、岡伸人：高酸化状態の鉄を含むバナジン酸塩ガラスの開発、第21回メスバウアー分光研究会シンポジウム、オンライン開催、2022年5月14日.
  2. 西田哲明、久富木志郎、岡伸人：メスバウアー分光法とガラスの科学（総説）、第21回メスバウアー分光研究会シンポジウム、オンライン開催、2022年5月14日.
  3. 森元悠眞、松迫駿介、松尾紗絵子、中原日向、福地彩夏、春田正和、西田哲明、岡伸人：バナジン酸塩ガラ
- スおよびガラスセラミック (15Li<sub>2</sub>O · 10Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> · 5P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> · 70V<sub>2</sub>O<sub>5</sub>) を用いたリチウムイオン電池正極活物質、第59回化学関連支部合同九州大会、福岡、2022年7月2日.
4. 中原日向、今村涼太、松尾紗絵子、森元悠眞、福地彩夏、湯浅雅賀、西田哲明、岡伸人：液中プラズマ法で合成したカーボンナノ粒子を用いた金属空気二次電池、第59回化学関連支部合同九州大会、福岡、2022年7月2日.
  5. 松尾紗絵子、櫻木貴久、中原日向、森元悠眞、福地彩夏、湯浅雅賀、西田哲明、岡伸人：バナジン酸塩ガラス空気極触媒を用いた亜鉛-空気電池の開発、第59回化学関連支部合同九州大会、福岡、2022年7月2日.
  6. 福地彩夏、久保萌花、松尾紗絵子、中原日向、森元悠眞、西田哲明、岡伸人：PAMPSハイドロゲルによる有害金属イオン除去、第59回化学関連支部合同九州大会、福岡、2022年7月2日.
  7. 岡伸人、松尾紗絵子、尾崎歩、福地彩夏、中原日向、森元悠眞、森岡陽介、堀英祐、西田哲明：清浄インテリア実現を目的とした殺菌光触媒塗料の開発、福岡県環境教育学会第25回年会、福岡、2022年8月20日.
  8. (受賞：優秀発表賞) 福地彩夏、久保萌花、松尾紗絵子、中原日向、森元悠眞、西田哲明、岡伸人：重金属廃液を浄化するためのゼリー状材料の開発および環境教育、福岡県環境教育学会第25回年会、福岡、2022年8月20日.
  9. (受賞：優秀発表賞) 森元悠眞、松迫駿介、松尾紗絵子、中原日向、福地彩夏、春田正和、西田哲明、岡伸人：酸化バナジウムを主成分とするガラスによるLiイオン電池用正極活物質の開発、福岡県環境教育学会第25回年会、福岡、2022年8月20日.
  10. 中原日向、今村涼太、松尾紗絵子、森元悠眞、福地彩夏、湯浅雅賀、西田哲明、岡伸人：カーボンナノ材料を空気極触媒とした空気電池の開発、福岡県環境教育学会第25回年会、福岡、2022年8月20日.
  11. 福地彩夏、久保萌花、松尾紗絵子、中原日向、森元悠眞、西田哲明、岡伸人：高分子ゲルによる工業排水中の低濃度NiおよびZnの除去技術の開発、近畿大学第10回院生サミット、大阪、2022年10月1日.
  12. 中原日向、今村涼太、松尾紗絵子、森元悠眞、福地彩夏、湯浅雅賀、西田哲明、岡伸人：液中プラズマ法により合成したカーボンナノ粒子空気極触媒による空気電池の開発、近畿大学第10回院生サミット、大阪、2022年10月1日.
  13. 中原日向、櫻木貴久、松尾紗絵子、福地彩夏、森元悠眞、湯浅雅賀、西田哲明、岡伸人：コバルト含有バナジン酸塩ガラスを空気極触媒とする金属空気電池の開発、セラミックス協会九州支部2022秋季研究発表会、オンライン開催、2022年11月25日.
- 学外活動
1. 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測セ

ンター科学技術専門家ネットワーク、専門調査員。

2. 透明酸化物光・電子材料研究会、幹事（研究会担当）（一般財団法人総合研究奨励会、東京大学大学院工学系研究科総合研究機構内）。（～2022年度：（独）日本学術振興会「透明酸化物光・電子材料第166委員会」）
3. 情報知識学会 学会誌編集委員。
4. 国際会議TCM-TOEO 2023 (9th International Symposium on Transparent Conductive Materials & 13th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics) [MRM2023 (Materials Research Meeting 2023) シンポジウムS-2, 2023年12月開催予定]、連絡オーガナイザー。
5. 国際会議ISIAME 2024 (International Symposium on the Industrial Applications of the Mössbauer Effect) (2024年9月開催予定)、代表オーガナイザー。

■出前授業、その他のセミナー

1. 近畿大学附属広島中学校福山校オープンスクール（中学Fes）：出前講義「キラキラ液晶」、2022年7月10日。
2. 近畿大学産業理工学部オープンキャンパス：模擬講義「未来を拓く材料科学 ～ゼリーを使った有毒物質の簡単除去など～」、2021年7月30日（午前の部、午後の部）。
3. 近畿大学附属広島高等学校福山校オープンスクール（高校Fes）：出前講義「キラキラ液晶」、2022年8月28日。
4. 福岡県立鞍手高等学校（SSH学生向け）：出前講義「光触媒塗料の作製とそれを使ったお絵描き」、2022年8月4日。
5. 福岡県立嘉穂高等学校（理数科1、2年生向け）：課題研究発表会審査員、2023年2月1日。

湯浅 雅賀

■学術論文

1. Masayoshi Yuasa, Miu Tanaka, Masayo Shimizu, Mamia Yoshida:  
Mechanochemical Synthesis of Nitrogen-Doped and Sulfur-Doped Multilayer Graphene for Use in Bifunctional Oxygen Electrodes  
Journal of the Electrochemical Society, 169, 064515 (2022)
2. Masayoshi Yuasa, Yuki Koga, Hazuki Ueda, Tomonari Zayasu:  
Effect of hydrothermal treatment and LaMnO<sub>3</sub> loading on the oxygen reduction activity of chitosan-derived carbon-based gas diffusion electrodes  
Journal of Applied Electrochemistry, 52, 1173-1186 (2022)
3. Masayoshi Yuasa:  
Molten salt synthesis of Nb-doped TiO<sub>2</sub> rod-like particles for use in bifunctional oxygen reduction/

evolution electrodes Ceramics International, 48, 14735-14744 (2022)

■国内学会発表

1. 湯浅雅賀、清水雅代、田中未有：  
メカノケミカル処理により合成したN,Sドーブカーボンの酸素還元発生特性、2022年 電気化学秋季大会、神奈川県立神奈川大学、横浜市（ハイブリッド開催）、2022年9月
2. 座安朋成、古賀優希、湯浅雅賀：  
亜鉛により賦活化した窒素ドーブカーボンの酸素還元測定、第59回化学関連支部合同九州大会、北九州国際会議場、北九州市、2022年7月

■その他

1. 湯浅雅賀:  
電気化学エネルギー変換デバイスのための酸素電極の研究、第4回近畿大学エネルギーフォーラム、近畿大学、東大阪市、2022年11月

村上 大樹

■学術論文

1. Haque M. A., Murakami D., Tanaka M.,  
Cell Adhesion Strength Indicates the Antithrombogenicity of Poly (2-Methoxyethyl Acrylate) (PMEA): Potential Candidate for Artificial Small-Diameter Blood Vessel.  
*Surfaces*, 2022, 5, 365.
2. Haque M. A., Murakami D., Anada T., Tanaka M.,  
Poly (2-methoxyethyl acrylate) (PMEA)-coated anti-platelet adhesive surfaces to mimic native blood vessels through HUVECs attachment, migration, and monolayer formation.  
*Coatings*, 2022, 12, 869.
3. Nishida K., Baba K., Murakami D., Tanaka M.,  
Nanoscope Analyses of Protein Adsorption on Poly (2-methoxyethyl acrylate) Surfaces for Tailoring Cell Adhesiveness.  
*Biomaterials Science*, 2022, 10, 2953.
4. Ikemoto Y., Harada Y., Tanaka M., Nishimura S., Murakami D., Kurahashi N., Moriwaki T., Yamazoe K., Washizu H., Ishii Y., Torii H.  
Infrared Spectra and Hydrogen-Bond Configurations of Water Molecules at the Interface of Water-Insoluble Polymers under Humidified Conditions  
*The Journal of Physical Chemistry B*, 2022, 126, 4143

■国際学会発表

なし

## ■国内学会発表

なし

## ■その他

なし

## 電気電子工学科

## 金島 岳

## ■学術論文

1. Converse magnetoelectric coupling coefficient greater than  $10^{-6}$  s/m in perpendicularly magnetized Co/Pd multilayers on Pb (Mg $_{1/3}$ Nb $_{2/3}$ ) O $_3$ -PbTiO $_3$ ,  
T. Usami, Y. Sanada, Y. Shiratsuchi, S. Yamada, T. Kanashima, R. Nakatani, K. Hamaya,  
Journal of Magnetism and Magnetic Materials, Vol 570, 2023, 170532 (March 2023)
2. Giant converse magnetoelectric effect in a multiferroic heterostructure with polycrystalline Co $_2$ FeSi,  
Fujii, S; Usami, T; Shiratsuchi, Y; Kerrigan, AM; Yatmeidhy, AM; Yamada, S; Kanashima, T; Nakatani, R; Lazarov, VK; Oguchi, T; Gohda, Y; Hamaya, K;  
NPG ASIA MATERIALS, Vol. 14, 2022, 43 (Dec 2022)
3. Converse Magnetoelectric Effect in Epitaxial Co $_2$ MnSi/Pb (Mg $_{1/3}$ Nb $_{2/3}$ ) O $_3$ -PbTiO $_3$  Multiferroic Heterostructures,  
Usami, T; Fujii, S; Yamada, S; Shiratsuchi, Y; Kanashima, T; Nakatani, R; Hamaya, K;  
IEEE TRANSACTIONS ON MAGNETICS, Vol. 58, 2022, 2501505 (Aug 2022)

## ■その他

模擬講義「最近話題の半導体を学ぼう」(近畿大学産業理工学部オープンキャンパス、2022年7月30日)

## 白土 浩

## ■学術論文

H. Shiratsuchi, M. Furuta, Y. Wakamori, K. Horiuchi and T. Matsuzaki:  
“A Study on the Microorganisms Image Recognition Assist System based on Deep Learning”, ICIC Express Letters, Vol.16, No.6, pp. 621-628 (2022).

## ■国際学会発表

H. Shiratsuchi, M. Furuta, K. Furukado, K. Horiuchi and T. Matsuzaki:  
“A Study on the Microorganisms Detection from Microscopic Images Using Deep Learning”, Proc. of 16th ICICIC, B1-6, Onsite (Chongqing, China) and Online (Sep. 15-16, 2022).

## 松崎 隆哲

## ■学術論文

T. Matsuzaki, E. Taguchi, K. Horiuchi, H. Shiratsuchi, K.

Mashiko:

“Implementation of a User Interface for an Educational Material System to Easily Experience the Differences in Motor Control Theory,” ICIC Express Letters, Part B:Applications, Vol.13, No.6, pp.589-595, Jun 2022.

■国際学会発表

T. Matsuzaki, S. Ueyama, H. Matsuoka, K. Horiuchi, H. Shiratsuchi:

“Preliminary Evaluation for Application of Machine Vibration Detection using Wi-Fi Sensing to Machine Failure Prediction System,” The 16th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2022), Online, Sept.

春田 正和

■学術論文

R. Sugimoto, K. Marumoto, M. Haruta, M. Inaba, T. Doi:

“Quantitative Evaluation and Improvement of Interfacial Li<sup>+</sup> Transfer Between SiO<sub>x</sub> Electrode and Garnet-Type Ta-Doped Li<sub>7</sub>La<sub>3</sub>Zr<sub>2</sub>O<sub>12</sub> Electrolyte”, ChemElectroChem, Vol.9 No.17 e202200491, Sept 2022.

■国際学会発表

1. S. Matsuo, S. Matsusako, Y. Morimoto, A. Fukuchi, H. Nakahara, M. Haruta, T. Nishida, N. Oka:

“Development of Cathode Active Materials using CrIII-containing Vanadate Glass for Li-ion Battery”, 2022 Spring Meeting of European Materials Research Society (E-MRS) (Online), May 2022.

2. A. Fukuchi, S. Matsusako, Y. Morimoto, S. Matsuo, H. Nakahara, M. Haruta, T. Nishida, N. Oka: “Cathode active material containing vanadate glass developed for lithium-ion battery”, TCM-TOEO2022 (8th International Symposium on Transparent Conductive Materials & 12th International Symposium on Transparent Oxide and Related Materials for Electronics and Optics) (Greece) Oct 2022.

■国内学会発表

1. 森元悠真、松迫駿介、松尾紗絵子、中原日向、福地彩夏、春田正和、西田哲明、岡伸人、“バナジン酸塩ガラスおよびガラスセラミック (15Li<sub>2</sub>O · 10Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> · 5P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> · 70V<sub>2</sub>O<sub>5</sub>) を用いたリチウムイオン電池正極活物質”、第59回化学関連支部合同九州大会 (福岡)、2022年7月2日

2. (優秀発表賞) 森元悠真、松迫駿介、松尾紗絵子、中原日向、福地彩夏、春田正和、西田哲明、岡伸人、“酸化バナジウムを主成分とするガラスによるLiイオン電池

用正極活物質の開発”、福岡県環境教育学会第25回年会 (福岡)、2022年8月20日

3. 杉本稜介、丸本晃平、春田正和、稲葉稔、土井貴之、“SiO<sub>x</sub>薄膜電極/固体電解質間の界面 Li+移動抵抗に酸素量xが与える影響”、1N09、2022電気化学秋季大会 (神奈川)、2022年9月8-9日
4. 小倉一真、上嶋凌大、春田正和、“LiF被膜形成によるリチウムイオン電池用シリコン負極の特性改善”、18p-P16、薄膜材料デバイス研究会第19回研究集会 (京都)、2022年11月17-18日
5. 春田正和、“次世代リチウムイオン電池用シリコン系負極の開発と全固体電池への応用”、第4回近畿大学エネルギーフォーラム (大阪)、2022年11月26日
6. 小倉一真、上嶋凌大、春田正和、“リチウムイオン電池用Si負極のLiF被覆による寿命特性改善”、15a-D505-5、第70回応用物理学会春季学術講演会 (東京)、2023年3月15-18日
7. 口町光希、河口稜太、春田正和、“透明全固体電池を目指したLi<sub>3</sub>Fe<sub>2</sub> (PO<sub>4</sub>)<sub>3</sub>薄膜電極の作製”、15a-D505-6、第70回応用物理学会春季学術講演会 (東京)、2023年3月15-18日
8. スベンソン エリカ、春田正和、稲葉稔、土井貴之、“LiN (SO<sub>2</sub>F)<sub>2</sub>濃厚電解液のフッ素化エーテル希釈によるLiNi<sub>0.8</sub>Co<sub>0.1</sub>Mn<sub>0.1</sub>O<sub>2</sub>正極特性の向上”、2H05、電気化学会第90回大会 (宮城)、2023年3月27-29日

■その他

春田正和、“カーボンニュートラルを目指した次世代蓄電池の研究”、近畿大学産業理工学部研究成果報告会2022、2022年2月21日

笠原 健司

■学術論文

T. Hara, K. Kasahara, T. Manago:

“Intensity nonreciprocity reversal of spin wave in magnonic crystal by specific wavenumber excitation”, J. Phy. D: Appl. Phys. vol. 55, no. 36, pp. 365001-1 - 7, DOI 10.1088/1361-6463/ac791b, June 2022.

■紀要

笠原健司、中野貴文、眞砂卓史、  
“有機金属分解法で作製したイットリウム鉄ガーネット薄膜中を伝搬する静磁表面スピン波の伝搬特性”  
福岡大学理学集報52巻. 2号. 14頁 (2022年9月)

■国内学会発表

1. 原大賀、笠原健司、眞砂卓史  
“波数の異なる蛇行アンテナを用いたスピン波の励起および検出”、第70回応用物理学会春季学術講演会、宮城



県、2023年3月開催

2. 藺島和真、笠原健司、眞砂卓史  
“Cuキャップ層によるMSSWの緩和長の増大”、第83回  
応用物理学会秋季学術講演会、東京都、2022年9月開催
3. 原大賀、笠原健司、眞砂卓史  
“スピン波検出時における蛇行アンテナの誘導電流”  
第83回応用物理学会秋季学術講演会、宮城県、2022年9  
月開催

## 建築・デザイン学科

### 依田 浩敏

#### ■学術論文

1. 依田浩敏：  
リモート授業を受講する大学生の室内環境に関するアンケート調査、特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会、環境カウンセラーESD学会誌 ESD by EC Report-環境カウンセラーESD研究-、第2号、pp.5～10、2022年5月
2. 依田浩敏：  
福岡県ならびに県下自治体のCNに向けた取り組み、日本建築学会地球環境委員会建築と都市Paris協定達成小委員会／建築SDGs宣言推進特別調査委員会、シンポジウム 地域カーボンニュートラル・SDGs推進に向けた暮らし方～具体的な取り組みに向けて～報告書、pp.99～108、2023年3月

#### ■総説

1. 依田浩敏：  
地域から環境社会を問う建築、株式会社建築画報社、建築画報、批評に立ち向かう建築 建築界の論客が読み解く佐藤総合計画、No.390、pp.90～91、2022年4月

#### ■報告書

1. 依田浩敏、石原真男、一滴隆、土井直也、友原孝志、花田美起、平本健、益本健、山崎伸一、山本芳久：  
小竹町2050年脱炭素地域づくり検討会報告書、小竹町、2023年2月
2. 依田浩敏：  
環境カウンセラー対象「環境カウンセラー登録制度」等に関するアンケート調査、環境カウンセラー全国事務局、2023年3月
3. 依田浩敏：  
環境カウンセラー協（議）会対象「環境カウンセラー関連団体の活動と課題」に関するアンケート調査結果、環境カウンセラー全国事務局、2023年3月
4. 依田浩敏、住吉大輔、福田展淳、堀英祐、今給黎督：  
「福岡天神地区カーボンニュートラルBCD準備委員会」活動報告書、一般社団法人都市環境エネルギー協会、2023年3月

#### ■国際会議発表

1. H. Yoda：  
Calculation of Carbon Dioxide Emissions and Absorption in Fukuoka Prefecture, Asia Institute of Urban Environment, Journal of Asian Urban Environment, Annual 2022, pp.197～202, Yokohama and hybrid, Dec.2022（査読有）

■国内学会発表

1. 依田浩敏：  
自治体排出量カルテを活用した脱炭素社会に向けた地域特性分析、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学Ⅱ、pp.2267～2268、札幌・オンライン、2022年9月
2. 光永威彦、池田大輔、内山稔、村川三郎、村上周三、坊垣和明、亀谷茂樹、高口洋人、半澤久、吉野博、奥宮正哉、浅野良晴、下田吉之、依田浩敏：  
幼稚園・保育園の設計用単位給水量の検討－非住宅建築物の環境関連データベース（DECC）を活用した水消費実態の把握－、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、第1巻、pp.101～104、神戸、2022年9月
3. 依田浩敏：  
自治体排出量カルテを活用した二酸化炭素排出特性、空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、第10巻、pp.405～408、神戸、2022年9月
4. 依田浩敏：  
レジ袋有料化による意識とライフスタイルの変化に関するアンケート調査、環境カウンセラーESD学会、令和4年度研究大会（オンライン）研究発表論文集、No.2、オンライン、2022年12月
5. 依田浩敏：  
福岡市都心部における壁面緑化の現況調査、日本建築学会研究報告九州支部、第62号・2環境系、pp.205～208、佐賀・オンライン、2023年3月

■講演

1. 依田浩敏：  
特定非営利活動法人ふくおか環境カウンセラーの活動紹介、福岡県環境県民会議、取組発表、福岡、2022年5月
2. 依田浩敏：  
大学教員になるには、福岡市立照葉中学校、社会人講話、福岡、2022年9月
3. 依田浩敏：  
学校における環境衛生管理の現状（中学校での調査事例紹介）、空気調和・衛生工学会、市民公開シンポジウム、福岡、2022年11月
4. 依田浩敏：  
福岡県ならびに県下自治体のCNに向けた取り組み、日本建築学会地球環境委員会建築と都市Paris協定達成小委員会／建築SDGs宣言推進特別調査委員会、シンポジウム 地域カーボンニュートラル・SDGs推進に向けた暮らし方～具体的な取り組みに向けて～、オンライン、2023年3月

■受賞・表彰

1. 依田浩敏：  
福岡市環境行動賞 奨励賞（感謝状）、（福岡市）、2022年6月9日

津田 和明

■学術論文

1. 松橋信哉、津田和明、杉本訓祥：  
鉄筋コンクリート造柱梁部材のせん断に対する短期許容応力度設計法に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.44、No.2、pp.1～6、2022年7月
2. 西本昂平、津田和明：  
RC梁の弾塑性挙動に対するスラブ有効幅に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.44、No.2、pp.577～582、2022年7月
3. 久米凱到、津田和明：  
鉄筋コンクリート造ドア型有開口耐震壁の曲げ弾塑性挙動に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.44、No.2、pp.493～498、2022年7月
4. 杠知亮、津田和明：  
鉄筋コンクリート造有開口耐震壁のせん断終局強度算定法に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.44、No.2、pp.499～504、2022年7月

■国内学会発表

1. 北村祐馬、津田和明：  
機械式定着に着目したRC造ト形柱梁接合部のせん断終局強度算定法に関する研究、日本建築学会学術講演梗概集、pp.61～62、2022年9月
2. 西本昂平、津田和明：  
鉄筋コンクリート造梁の弾塑性挙動に対するスラブ有効幅に関する研究、日本建築学会学術講演梗概集、pp.113～114、2022年9月
3. 久米凱到、津田和明：  
ドア型開口を有するRC造耐震壁の曲げ弾性剛性算定法に関する研究、日本建築学会学術講演梗概集、pp.363～364、2022年9月
4. 杠知亮、津田和明：  
RC造有開口耐震壁のせん断終局強度算定法に関する研究、日本建築学会学術講演梗概集、pp.365～369、2022年9月
5. 松橋信哉、津田和明、杉本訓祥：  
RC造柱梁部材のせん断に対する短期許容応力度設計法に関する研究、日本建築学会学術講演梗概集、pp.423～424、2022年9月

小野 聡子

■学術論文（査読なし・アブストラクトあり）

1. 小野聡子、堀田楓：  
回転式開閉機構を有する簡易構造物のプロトタイプ試作、第17回コロキウム構造形態の解析と創生2022、2022年10月

## ■国内学会発表

1. 小野聡子：  
細胞の増殖を応用したトラス構造物の形態創生に関する研究、第92回形の科学シンポジウム「自然・文化・かたち」（北海道科学技術大学）、pp.7～8、2022年6月
2. 小野聡子：  
回転式開閉機構を有する簡易構造物の制作に関する基礎的研究（その1）プロトタイプ試作、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、構造II、オンライン、2022年9月
3. 堀田楓、小野聡子：  
回転式開閉機構を有する簡易構造物のプロトタイプ試作、第93回形の科学シンポジウム「知識社会における形」（福井大学&オンライン）、pp.49～50、2022年11月
4. 小野聡子：  
細胞の増殖および細胞の消滅を応用したトラス構造物の形態創生に関する研究、第93回形の科学シンポジウム「知識社会における形」（福井大学&オンライン）、pp.51～52、2022年11月
5. 小野聡子：  
細胞の増殖を応用したトラス構造物の形態創生に関する研究、2022年度日本図学会大会（阿寒湖温泉）、2022年11月
6. 小野聡子、堀田楓：  
回転式開閉機構を有する簡易構造物の制作に関する研究（その1）プロトタイプ試作、2022年度（第62回）日本建築学会九州支部研究発表会（佐賀）、pp.217～220、2023年3月
7. 加藤憲司、荒木光子、杉村泰司、小野聡子：  
大径化した原木の活用に関する研究（その1）大径木厚板による板倉式ユニットハウスの試作、2022年度（第62回）日本建築学会九州支部研究発表会（佐賀）、pp.481～484、2023年3月
8. 杉村泰司、荒木光子、加藤憲司、小野聡子：  
大径化した原木の活用に関する研究（その2）落とし込み壁の実大実験、2022年度（第62回）日本建築学会九州支部研究発表会（佐賀）、pp.485～488、2023年3月
9. 加藤憲司、荒木光子、杉村泰司、小野聡子：  
大径化した原木の活用に関する研究（その1）大径木厚板による板倉式ユニットハウスの試作、第73回（2023年）日本木材学会大会（福岡）、2023年3月
10. 小野聡子、杉村泰司、加藤憲司、荒木光子：  
大径化した原木の活用に関する研究（その2）落とし込み壁の実大実験、第73回（2023年）日本木材学会大会（福岡）、2023年3月
11. 山崎さくら、杉村泰司、荒木光子、加藤憲司、小野聡子：  
大径化した原木の活用に関する研究（その3）床の実大実験、第73回（2023年）日本木材学会大会（福岡）、

- 2023年3月
12. 荒木光子、加藤憲司、杉村泰司、小野聡子：  
大径化した原木の活用に関する研究（その4）仮設建築物の施工および見学者に対するアンケート結果、第73回（2023年）日本木材学会大会（福岡）、2023年3月
  13. 杉村泰司、荒木光子、加藤憲司、小野聡子：  
大径化した原木の活用に関する研究（その5）仮設建築物の施工に関する検証結果落とし込み壁の実大実験、第73回（2023年）日本木材学会大会（福岡）、2023年3月

## ■国内発表

1. 堀田楓、小野聡子：  
回転式開閉機構を有する簡易構造物の制作に関する基礎的研究（その1）プロトタイプ試作、シェルと空間構造に関する夏期セミナー2022、2022年8月17日～2022年8月18日
2. 小野聡子：  
地域材で地方創生まるごと大径木～挽く挽く使おう大きな木～、シェルと空間構造に関する夏期セミナー2022、2022年8月17日～2022年8月18日

## ■出張講義

1. 小野聡子：  
進路ガイダンス（建築学・土木・都市工学系）、福岡市立福岡西陵高等学校、2022年10月19日

## 鶴野 幸子

## ■国内学会発表

1. 岸本雄哉、鶴野幸子：  
炭鉦の町の復元—三井田川鉦業所伊田堅坑バーチャルモデル—、2022年度日本デザイン学会第5支部発表会、<https://design.kyusan-u.ac.jp/jssd5th2022/index.php/> 炭鉦の町の復元、2022年10月29日

## 小池 博

## ■学術論文

1. 太田壮哉、長谷川直樹、小池博：  
中学校での地域貢献活動プログラムによる地域の愛着・地域貢献意欲への影響分析、日本都市計画学会都市計画論文集Vol.57 No.3、pp.721～727、2022年10月

## ■国内学会発表

1. 小池博、大石竜也、内直人、枋迫柊：  
菰田のこもり場プロジェクト 築60年木造平屋建事務室棟のリノベーションの教育的効果について、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、オンライン、pp.37～38、2022年9月
2. 大石竜也、内直人、枋迫柊、小池博：  
菰田のこもり場プロジェクトその1 学生による築60

年、木造平屋建事務所棟の地域活動拠点へのリノベーション、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、オンライン、pp.132～133、2022年9月

3. 内直人、枋迫柊、大石竜也、小池博：  
菰田のこもり場プロジェクトその2 学生が主催した家具製作イベントによる地域活性化の試み、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、オンライン、pp.134～135、2022年9月
4. 角大輔、小池博：  
楽市のアパートメント、日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）、オンライン、pp.454～455、2022年9月

■講演

1. 小池博：  
遠賀川河川敷利活用 これまでの流れ、令和4年度遠賀川と飯塚河川敷を市民の憩いの場にしよう会（第10回）、2022年8月4日
2. 小池博+k-lab：  
2022 NIGHTRIVER IN IIZUKA 学生提案、川づきあい交流会、2019年10月11日

■そのほか

1. 小池博、大石竜也、内直人、枋迫柊+k-lab：  
菰田のこもり場 家具製作イベント、2022年3月20日
2. 小池博、大石竜也、内直人、枋迫柊+k-lab：  
菰田のこもり場 昔あそびイベント、2022年7月11日
3. 小池博+k-lab：  
ワークショップ『ナイトリバーin飯塚2022』、2022年10月3日
4. 小池博+k-lab：  
しんいづか商店街ぶらり市会場デザイン、2022年10月23日
5. 小池博+k-lab：  
ナイトリバー会場デザイン+照明デザイン、2022年10月29日
6. 小池博+k-lab：  
ぶっくりモールin飯塚2022 空店舗リノベーションプロジェクト、2022年11月14日、15日
7. 小池博+k-lab：  
飯塚高校まちなか文化祭中央会場デザイン、2022年11月26日、27日
8. 小池博+k-lab：  
エコLightナイト企画、運営、ランタンデザイン、2022年12月10日
9. 小池博+k-lab：  
エコスタいいづかランタン制作イベント、2023年2月11日

益田 信也

■国内発表

1. 益田信也：  
飯塚市内野地区の国指定文化財等指定に向けた歴史的景観資源の基礎調査、近畿大学産業理工学部研究成果報告会2022、2023年2月21日
2. 益田信也、植田幹太、岡原葵：  
庄内地区の拠点整備および今後の施設運営のための住民アンケート調査報告、庄内まちづくりワークショップ（第17回）、飯塚市庄内交流センター、2023年2月28日

■作品（建築計画）

1. 益田信也：  
飯塚市庄内交流センター・保健福祉総合センターハーモニー移転統合・複合化計画、飯塚市綱分771番地、2022年4月1日開館

堀 英祐

■学術論文

1. 松尾紗絵子、下城直貴、福地彩夏、中原日向、森元悠真、森岡陽介、堀英祐、西田哲明、岡伸人：  
清浄インテリア実現に向けた殺菌光触媒塗料の開発および環境教育、かやのもり33：近畿大学産業理工学部研究報告、pp.39～42、2022年6月

■国内学会発表

1. 堀英祐：  
無焼成レンガを用いた木造戸建て住宅の室内温熱環境に関する調査研究 その1 冬期の実測調査結果、日本建築学会大会学術講演梗概集、環境工学 I、pp.749～750、2022年7月（オンライン）

■掲載

1. Eureka（堀英祐、稲垣淳哉、佐野哲史、永井拓生）：  
次世代の建築家Eureka、モダンリビング No.263、ハースト婦人画報社、2022年6月
2. Eureka（堀英祐、稲垣淳哉、佐野哲史、永井拓生）：  
フォーカス「住宅」あざみ野の土“土”に囲まれて暮らす、日経アーキテクチュア2022年5月26日号、日経BP社、2022年5月

■受賞

1. Eureka（堀英祐、稲垣淳哉、佐野哲史、永井拓生）：  
「あざみ野の土」日本空間デザイン賞2022入選、2022年8月
2. Eureka（堀英祐、稲垣淳哉、佐野哲史、永井拓生）、大東建託株式会社、NPO法人プラス・アーツ：  
「ぼ・く・ラボ賃貸 ニーモ」フェーズフリーアワード2022オーディエンス賞（PHASEFREE AWARD Audience）、2022年9月

### ■講演

1. Eureka (堀英祐、稲垣淳哉、佐野哲史、永井拓生) :  
第28回AB研究会これからの担う若手建築家の活動と実践④「コレクティブな建築をめざして」、A-Forum、2022年10月15日

### 松原 独歩

#### ■学術論文 (審査付き)

1. 生越季理、寺西正輝、松原独歩、石川浩一郎 :  
X線CT画像を用いた二枚貝の幾何学的・力学的解析手法の提案、日本建築学会構造系論文集、Vol.87、No.795、pp.445-453、2022年5月
2. Masaki Teranishi, Doppo Matsubara :  
Pretension loss in bolted timber joint under external tensile load, European Journal of Wood and Wood Products, Vol.80, No.4, pp.817-827, 2022年5月
3. Doppo Matsubara, Masaki Teranishi :  
Evaluation of elastic stiffness in bolted timber joints for applying turn-of-nut method, Journal of Wood Science, Vol.68, No.32, Open access, 2022年6月
4. Doppo Matsubara, Masaki Teranishi, Yoshiaki Wakashima :  
Elastic interaction in multiple bolted timber joints, Journal of Wood Science, Vol.68, No.53, Open access, 2022年9月
5. 清水秀丸、松原独歩、若島嘉朗、寺西正輝、北守顕久 :  
応力緩和および促進劣化試験から評価したプレストレスを与えた接合部の軸力変動、木材工業、Vol.77、No.10、pp.384-389、2022年10月

#### ■学術論文 (審査無し)

1. Minori Ogoshi, Masaki Teranishi, Doppo Matsubara :  
Finite element analysis of the bi-valve shell based on solid and shell elements, Proceedings of the IASS Annual Symposium 2022, pp.3229-3238, 2022年9月

#### ■国外学会発表

1. Minori Ogoshi, Masaki Teranishi, Doppo Matsubara :  
Finite element analysis of the bi-valve shell based on solid and shell elements, IASS Annual Symposium 2022, 2022年9月

#### ■国内学会発表

1. 生越季理、寺西正輝、松原独歩 :  
トリガイ形状モデルにおける振動特性の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集 選抜梗概、pp.865-868、2022年7月
2. 白駒尚寛、大谷忠、飯田隆一、松原独歩、樋口智寛、西田葵 :

木材の高速摩擦処理における表面温度の予測と制御、第32回日本MRS年次大会、2022年12月

3. 百合草瑞季、大谷忠、飯田隆一、樋口智寛、西田葵、松原独歩 :  
高速摩擦処理した木材表面におけるトライボケミカル反応の影響、第32回日本MRS年次大会、2022年12月
4. 百合草瑞季、大谷忠、飯田隆一、松原独歩、樋口智寛、西田葵、峯英一 :  
高速摩擦処理した木材表面におけるトライボケミカル反応の影響、第73回日本木材学会大会研究発表要旨集、2023年3月
5. 白駒尚寛、大谷忠、飯田隆一、松原独歩、樋口智寛、西田葵、峯英一 :  
木材の高速摩擦処理における表面温度の予測と制御、第73回日本木材学会大会研究発表要旨集、2023年3月
6. 若島嘉朗、花島宏奈、清水秀丸、北守顕久、松原独歩 :  
異なる応力レベル下における木材の長期的応力緩和挙動、第73回日本木材学会大会研究発表要旨集、2023年3月

### 森岡 陽介

#### ■学術論文

1. 松尾紗絵子、下城直貴、福地彩夏、中原日向、森元悠真、森岡陽介、堀英祐、西田哲明、岡伸人 :  
清浄インテリア実現に向けた殺菌光触媒塗料の開発および環境教育、かやのもり33 : 近畿大学産業理工学部研究報告、pp.39~42、2022年6月

#### ■依頼解説

1. 森岡陽介 :  
賃貸住宅共同住宅戸内リノベーションにおける図の役割 (福岡市博多区の賃貸共同住宅を事例として)、日本設計工学会誌設計工学、第57巻第7号、pp.302~305、2022年7月

#### ■出前講義

1. 森岡陽介 :  
「リノベーションのデザイン～空間再生と使いこなしの考え方～」、福岡県立小郡高等学校、2022年11月17日

### 淵上 貴代

#### ■国内学会発表

1. 淵上貴代、川野まど香 :  
コミュニティ配慮型災害公営住宅における設計者の意図と住民の使い方の比較 2016年熊本地震を事例として、日本建築学会九州支部研究発表会、2023年3月
2. 川野まど香、淵上貴代、末廣香織 :  
災害公営住宅の屋外空間における住民間交流の実態調査 2016年熊本地震における木造平屋建て災害公営住宅

団地を対象として、日本建築学会九州支部研究発表会、  
2023年3月

## 情報学科

### 鈴木 信雄

#### ■学術論文

1. Nobuo Suzuki, Kentaro Tajiri, Miyu Sato: Three Cs detection method using Wi-Fi radio wave statistics, *Procedia Computer Science*, Elsevier B.V., Vol.207, pp.343-350 (Sep. 2022)
2. Keiichi Takahashi, Nobuo Suzuki: Learning Status Report Tool for Programming Learning Services, *Procedia Computer Science*, Elsevier B.V., Vol.207, pp.1562-1570 (Sep. 2022)

#### ■国内学会発表

1. 吉岡達哉、横山浩之、長谷川晃朗、青木寛、鈴木信雄、前山利幸：自律分散型動的周波数共用技術の研究開発、ICTイノベーションフォーラム2022、P-011 (2022/12/14)
2. 鈴木信雄：5G AKAプロトコルにおける脆弱性、ATR-SLJP Meeting 2022, No.3-3 (2023/1/20)
3. 鈴木信雄、松中隆志：5G AKAプロトコルにおける脆弱性の評価、2023電子情報通信学会総合大会、B-6-73 (2023/3/9)

#### ■特許

1. 波源位置推定装置、コンピュータに実行させるためのプログラム、およびプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体、特許第7089713号 (2022/6/15)
2. 電力推定装置、それを備えた無線通信システム、コンピュータに実行させるためのプログラムおよびデータ構造、特許第7113472号 (2022/7/28)
3. 通信推定装置、コンピュータに実行させるためのプログラムおよびプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体、特許第7131768号 (2022/8/29)
4. 通信制御装置、コンピュータに実行させるためのプログラム、プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体およびデータ構造、特許第7142326号 (2022/9/15)
5. 電波品質推定装置、それを備えた端末装置、コンピュータに実行させるためのプログラム、プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体およびデータ構造、特許第7154533号 (2022/10/7)
6. 通信制御装置、通信制御装置を備えた基地局、通信制御装置を備えた端末装置、コンピュータに実行させるためのプログラム、プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体およびデータ構造、特許第7154532号 (2022/10/7)
7. 制御装置、その制御装置を備えた無線通信システム、コンピュータに実行させるためのプログラム、およびプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒

体、特許第7221489号 (2023/2/6)

## 寺井 仁

### ■学術論文

1. Matsubayashi, S., Miwa, K., Terai, H., Shimojo, A., & Ninomiya, Y. (*in press*). Self-Benefit and Others' Benefit in Cooperative Behavior in Shared Space. *Human Factors*.
2. Ninomiya, Y., Terai, H., & Miwa, K. (2022). Differences in the distribution of attention to trained procedure between finders and non-finders of the alternative better procedure. *Frontiers in Psychology*, 13, 934029.
3. Shimojo, A., Ninomiya, Y., Miwa, K., Terai, H., Matsubayashi, S., Okuda, H., & Suzuki, T. (2022). How impressions of other drivers affect one's behavior when merging lanes. *Transportation research: traffic psychology and behaviour*, 89, 236-248.

### ■国際学会発表

1. Matsubayashi, S., Miwa, K., Terai, H., Ninomiya, Y. (*in press*). Distinct Characteristics between "Anshin" and Feeling of Safety Evaluations. The Sixteenth International Conference on Advances in Computer-Human Interactions.
2. Ninomiya, Y., Shimojo, A., Matsubayashi, S., Terai, H., Miwa, K. (*in press*). Effects of saliency of an agent's input information on estimation of mental states toward the agent. The Sixteenth International Conference on Advances in Computer-Human Interactions.

### ■国内学会発表

1. 甲斐慎治・寺井仁 (2023). 匿名性が道徳的ジレンマ状況における意思決定に与える影響. ヒューマンコミュニケーション基礎研究会、77-79.
2. 寺井仁 (2022). 創造性評価にカテゴリ名の提示タイミングが与える影響. 『日本認知科学会第39回大会発表論文集』、821-822.
3. 松林翔太・三輪和久・寺井仁・二宮由樹・下條朝也 (2022) Shared spaceの移動における思いやり度を示す指標の開発. 『日本認知科学会第39回大会発表論文集』、281-282.
4. 二宮 由樹・下條 朝也・寺井 仁・松林 翔太・三輪 和久 (2022). 自律エージェントの利用する情報の顕著性が行動ルールの言語的・非言語的推定に与える影響. 『日本認知科学会第39回大会発表論文集』、598-601.

## 高橋 圭一

### ■学術論文

1. Keiichi Takahashi, Nobuo Suzuki, Learning Status Report Tool for Programming Learning Services, *Procedia Computer Science*, Elsevier, Volume 207, 1562-1570, 2022.
2. 高橋圭一、学生の自信を育むプロジェクト管理授業の設計と評価、工学教育、採録決定.

### ■国際学会発表

1. Keiichi Takahashi, How Do Students Learn in an Online Programming Course? IFIP WCCE 2022: World Conference on Computers in Education, 2022/8/20-24.

### ■国内学会発表

1. 藤田諒、高橋圭一、歩行速度の同期有無における実走行感の比較実験、2022年度(第75回)電気・情報関係学会九州支部連合大会、2022/9/16.
2. 藤田諒、高橋圭一、室内狭空間で走行運動するためのVRリダイレクトドウォーキング制御の基礎実験、情報処理学会第85回全国大会、2023/3/24.
3. 高橋圭一、プログラミング演習のデバッグに対する過去のエラー情報に基づいた助言の可能性に関する分析、情報処理学会火の国情報シンポジウム2023、pp. 1-6, 2023/3/13-14.

### ■その他

1. 金子哲大、高橋圭一：近畿大学連携事業～アートキッズ「テルくまをつくろう」、織田廣喜美術館、2022/11/5-6.
2. 高橋圭一、スクラッチで小型ロボットをプログラムしてドットを消す時間を競うゲーム、Ogaki Mini Maker Fair 2022, 2022/12/3-4.

## 古賀 崇了

### ■学術論文

1. Masato Akai, Yoshiaki Ueda, Takanori Koga, and Noriaki Suetake, "A single backlit image enhancement method by image fusion with a weight map for improvement of dark area's visibility," *Optical Review*, vol. 29, no. 2, pp. 69-79, 2022, doi: 10.1007/s10043-022-00725-4.

### ■国際学会発表

1. Yoshiaki Ueda, Takanori Koga, and Noriaki Suetake, "Fusion-based backlit image enhancement using multiple S-type transformations for convex combination coefficients," *2022 IEEE International Conference on Image Processing (ICIP)*, 2022, pp. 2971-2975, doi:10.1109/

ICIP46576.2022.9897370.

2. Tatsunobu Tanaka and Takanori Koga, "A usability study of a retrofit contactless pushbutton interface using aerial image," *Proceedings of International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia (SISA)*, 2022, pp. 128-132, doi: 10.34385/proc.69.RS2-7.

■国内学会発表

1. 林元辰己、古賀崇了、"短波長赤外線カメラと深層学習を用いた物体の濡れを検出するビジョンシステムの開発," 電子情報通信学会総合大会ISSジュニア&学生ポスターセッション予稿集, p. 58 (ISS-P-006)、2023年3月.
2. 森田千里、古賀崇了、"空中結像を用いたキッチン用レシピ提示システムのユーザビリティに関する基礎的検討," 信学技報, vol. 122, no. 410, SIS2022-57, pp. 91-96、2023年3月.
3. 赤井優斗、植田祥明、古賀崇了、末竹規哲、"明度序列の変化を抑えた逆光画像の強調法に関する一提案," 信学技報, vol. 122, no. 293, SIS2022-35, pp. 68-73, 2022年12月.

■その他

古賀崇了、辻裕之、"国際会議開催報告 2022 International Workshop on Smart Info-Media Systems in Asia," *電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ Fundamentals Review*, 2022、16巻、3号、pp. 218-219, doi: 10.1587/essfr.16.3\_218.

勝瀬 郁代

■国内学会発表

勝瀬郁代、"Sequential VAE潜在変数による日本語アクセント型の判定"、日本音響学会秋季研究発表会講演論文集、3-P-7、2022.

■その他

E資格 (JDLA Deep Learning for ENGINEER 2023#1) 取得

経営ビジネス学科

平川 茂

■著書

1. 鶴見正史編著：複式簿記概説、五絃社、第4章、第5章担当、2023年3月

■学術論文

1. 平川茂：最近の法人税法の改正動向の制度的意義—法3類型モデルを前提として—、税務会計研究、第33号、215-222頁、2022年7月

大沼 卓也

■著書

1. 山野善正 (監修)：味以外のおいしさの科学—見た目・色・温度・重さ・イメージ、容器・パッケージ、食器、調理器具による感覚変化—、エヌ・ティー・エス、ブランドが食品の味わいやおいしさの評価に及ぼす影響、第3章第4節、pp.121-132. (分担執筆)
2. 木山幸子・大沼卓也・新国佳祐・熊可欣：学習・言語心理学、サイエンス社 (共著)

■国内学会発表

1. 大沼卓也：ランチマットの色による摂食行動の抑制効果、日本味と匂学会第56回大会、仙台、ポスター発表

高藪 広隆

■学術論文

1. T Nakaishi, H Takayabu：Production efficiency of animal feed obtained from food waste in Japan, *Environmental Science and Pollution Research* 29 (40), pp. 61187-61203
2. M Ogata, T Nakaishi, H Takayabu, S Eguchi, S Kagawa：Production efficiency and cost reduction potential of biodiesel fuel plants using waste cooking oil in Japan, *Journal of Environmental Management* 331, 117284

■国際学会発表

1. S Eguchi, Y Nakamoto, H Takayabu：Dynamics and regional heterogeneity in power generation efficiency of PV power plants in Japan focusing on new market entrants, The 28th International Input-Output Association Conference (Oral Presentation)
2. M Kito, H Takayabu, K Nansai：



Exploring low-cost pathways to achieve the 2050 decarbonisation goals of airlines, Ecobalance 2022 The 15th Biennial International Conference on Ecobalance (Poster Presentation)

3. Y Nakamoto, S Eguchi, H Takayabu :  
Uncertainty of electricity generation efficiency of variable renewable energy power plants: The case of Japanese photovoltaic power plants, Ecobalance 2022 The 15th Biennial International Conference on Ecobalance (Poster Presentation)
4. S Eguchi, Y Nakamoto, H Takayabu :  
Investigating power generation efficiency of PV power plants in Japan focusing on new market entrants, Ecobalance 2022 The 15th Biennial International Conference on Ecobalance (Poster Presentation)

#### ■国内学会発表

1. 高藪広隆・小松貴子・近藤康之・立尾浩一 :  
産業廃棄物多量データおよび広域移動データを活用した排出量・処理量の試算について、第33回 廃棄物資源循環学会 研究発表会 (口頭発表)

## 教養・基礎教育部門

### 位田 絵美

#### ■学術論文

1. 位田絵美 :  
『異国旅すゝり』の創作意図—漂流事件の小説化に見える読者の認識—、『解釈』第68巻、第9・10号、通巻728集、P.13~23、2022年10月、解釈学会
2. 位田絵美 :  
『保昌物かたり』の挿絵に関する予備的考察—松会版『大坂物語』挿絵との比較を中心に—、『近世初期文芸』第39号、P.23~35、2022年12月、近世初期文芸研究会

#### ■国際学会発表

1. 位田絵美 :  
『増補華夷通商考』から見える東アジアの物産品、2022年11月6日(日)、国際シンポジウム「日本と東アジアの〈異文化交流文学史〉」(立教大学日本学研究所主催) 発表・パネリスト(招待)

### 江口 誠

#### ■学術論文

1. 江口誠 :  
英語習熟度別クラスとICT活用の教育効果、産業理工学部研究報告、33、2022年